

令和6年度

第3回 学校運営協議会 議事録

○期 日：令和7年1月22日（水）

○時 間：10時00分～11時15分 会議

○場 所：プレイルーム

○出席者：学校運営協議会委員6名

A委員（教育関係者）

B委員（社会福祉関係者）

C委員（地域関係者）

D委員（地域企業関係者）

F委員（地域関係者）

G委員（生徒保護者）

学校関係者10名

校長、副校長2名、事務長、総括教務主任

小学部主事、中学部主事、高等部主事

生活指導部長、進路部長

○欠席者：学校運営協議会委員1名

E委員（町内会関係者）

<会議次第>

- 1 開 会
- 2 校長挨拶
- 3 出席者自己紹介
- 4 議 題
 - （1）学校経営計画について
 - （2）学校評価について
 - （3）地域との協働による教育活動について
 - （4）令和7年度の日程について
 - （5）その他
- 5 提 言（意見・要望・感想等）
- 6 連 絡
- 7 閉 会

1 開会

2 校長挨拶

本日は今年度3回目の学校運営協議会ということで、今年度の学校評価を踏まえた協議内容が主となっている。委員の皆様からのご意見もたくさんいただきながら、今後も地域と一体となった学校づくりを進めていきたいと考えている。

3 出席者自己紹介

委員は割愛。本日の協議に関わって追加で出席した職員のみ紹介。

4 議題

(1) 学校経営計画について・・・資料に基づいて説明。

目指す学校像として7つの重点目標を掲げて取り組んできた。それぞれの項目に沿って学校評価を踏まえ担当者から達成状況を説明した。

ア 「社会の中で自分の役割を積極的に果たす力を育てる教育の推進」(総括教務主任)

本校では小学部から高等部まで段階的な教育課程で体験的な学習活動を積極的に取り入れながら取り組んできている。小学部では生活する力の育成を中心に日々の学校生活における指導の他、校外学習などを通して実際に地域資源を活用した経験も取り入れている。中学部では更に将来の職業生活を見据え、働く力の育成も加えて作業学習を通した働く楽しさや有用感の経験を積み重ねている。高等部では作業学習が教育課程の中心となり、年に2回(3週間ずつ)の現場実習なども行いながら実践的な取り組みを進めている。学校評価では「作業学習や実習で、働く力が付いている」「先生たちの話は丁寧で分かりやすい」の項目について100%の肯定的評価を付けているなど、生徒たち自身も実感している様子がうかがえた。今後も一人一人の多様なニーズにあった学習の保障、授業づくりを検討していきたい。

イ 「健康と安全を心掛け、災害や感染症、いじめ等から命を守る教育の推進、いじめ等の未然防止と適切な対処」(生活指導部長)

今年度の学校評価では、いじめ等に対する取り組みについての項目が低評価であった。これまでの対応としては、様々な集会や学習会、トラブルが発生した際などに生徒全員に対して講話をしたり、個別面談をしたりして対応してきた。また、年2回のいじめアンケート実施や児童生徒会主体の活動として、いじめ防止の取組を行ってきた。今回の評価を受け、改善案として①生徒個々の発達段階や特性を踏まえながら、生徒が納得できるような関わり方や対話の機会の工夫②道徳教育の充実③職員間の共通理解のもと、組織的対応の強化を検討していきたい。

ウ 「自立と社会参加に向けた支援の充実と希望進路の充実」(進路部長)

学校評価の達成指標の割合については、昨年度より4.5%上昇し95.8%となった。進路相談会や職場説明会など、進路学習の機会の充実、個別面談、年2回の3週間ずつの職場実習などの取り組みが成果として評価に表れたものと思われる。日頃から各関係機関や地域の方々のご協力のおかげであると感謝している。今年度の卒業予定者8名のうち、4名が一般就労、2名がB型事業所、2名が生活介護事業所の進路先を予定している。今後も

継続して児童生徒に寄り添った進路指導に努めていきたい。

エ 「地域で共に学びともに育つ教育の推進」(校長)

本校では特別支援コーディネーターという役職が配置されており、地域の特別支援教育のセンター的機能を担っている。相談支援窓口を設置し、発達の子どもの支援について依頼のあった保育園や学校等に訪問し、実態把握や支援方法の助言等を行っている。また市町村教育委員会とも連携し、支援チームの一員として一緒に保育園等へ訪問することも行っている。学校評価では訪問した保育園等からは我々の訪問支援における助言等が役に立っているとの回答をいただいている。訪問回数については、教育委員会等の支援チームとも協力しながら検討していきたい。

オ 「開かれた学校づくりの推進」(副校長)

開かれた学校づくりの推進については達成指標の目標値をわずかに下回ったが、98.6%と高評価だった。侍浜小・中学校をはじめ、地域の皆様と交流する機会や拓陽祭や実習、作業学習などを通して地域の皆様にご協力をいただいているおかげで、児童生徒の成長につながっていると考えている。また、田屋町組みこし会との秋まつり交流も約40年間継続させていただいており、これらの教育活動が本校の強みであると感じている教職員も多い。

カ 「教職員の専門性の向上と効果的なチーム支援の充実」(校長)

本校では校内での研修の他、県全体で取り組んでいる研修会への参加など、日頃から幅広く教職員全体に研修の案内をし、積極的に参加してもらっている。校内研修にあたっては、どんなことを学びたいか教職員からアンケートを取り、学んだことが日頃の実践に生かせるような内容をテーマに取り上げている。また、校内研究では一つのテーマに基づき日々の授業づくりを見直し、子どもたちがより充実した学びができるように全職員で実践的検証に取り組んでいる。

キ 「不適切な指導を根絶する体制の構築」(副校長)

不適切な指導を根絶する体制づくりとして、年3回の研修会を実施している。そのうちの1回は、岩手モデルにおける教訓を職員全員で共有し、日頃の自分たちの指導を振り返ったり、学校としての宣言書を作成して各職員室に掲示したりして意識を高めている。また、毎月の職員会議においては職員からのコンプライアンス講話の機会も設定して取り組んでいるところである。

(2) 学校評価について・・・資料に基づいて説明。

(3) 地域との協働による教育活動について・・・スライドにて説明。

次年度は段階的学びの積み重ねや学部間のつながりを意識した取り組みを検討している。各学部における現段階の構想を学部主事から説明する。

- ・小学部：堀切地区の方々との交流の機会を検討している。基本的には地域の方々に来校していただき、学部集会等で一緒にゲームを楽しんだり、学校花壇の整備を一緒に行ったりするような活動を考えている。
- ・中学部：今年度から中学部でも学校周辺のゴミ拾いに取り組んでいるが、その活動を地域の方々と一緒に行うことを検討している。
- ・高等部：高等部ではこれまでも様々な場面で地域との協働活動に取り組んできたが、子どもたちの負担になりすぎないよう「地域に貢献する」という視点で活動を精選しながら取り組

んでいきたい。みこし交流は継続していく。

(4) 令和7年度の日程について

令和7年度は全3回の開催を予定している。具体的な期日については後日連絡する。

(5) その他（自由な意見交換）

G委員：本校は寄宿舎を利用していたり、スクールバスで通学していたりする生徒も多く、保護者同士や先生たちと会う機会が少ない。同じ学年の保護者や先生たちと直接会って交流できる機会が増えるとありがたい。

副校長：例えば、今年度は養松会（同窓生の親の会）の企画「茶話会」については、在校生の保護者にも参加を募って交流をする機会を設けていたが、思いのほか参加者が集まらなかったことと、養松会の担当者が急きょ都合が悪くなってしまったことにより、やむなく中止となってしまった経緯がある。ご意見を参考に次年度に向けてまた検討していきたい。

D委員：新年度に向けて取り組む中で、情報発信の仕方を工夫していく必要が出てくると思う。学校からの情報発信の仕方について何か現在考えていることはあるか。

校長：情報発信の仕方について、現段階ではまだ具体的な対応策は出ていない。コロナ禍を経て、行事のあり方や教育活動への取り組み方など様々変化をしてきている。教職員の働き方改革や保護者のニーズなどを踏まえながら、現在各学部や校務部等で検討しているところである。

5 提言

B委員：学校評価のアンケート結果については、数値の増減などはあまり気にする必要はないのではないか。日頃から前向きに取り組んでもらっているし、個別の対応も必要な学校ということで様々工夫もしていることと思う。社会福祉協議会としても日頃市民の皆様へ活動支援や相談支援等の対応をしている。イベント等も様々企画して行っているので、学校もぜひ活用していただければと思う。また、福祉作文などは引き続きご協力いただきたい。

C委員：夏井委員同様、アンケート結果については学校の規模や人数により割合が変動しやすいと思われるので、あまり気にしなくて良いと思う。市民センターとしてもまた行事等で一緒に協力していきたいと考えている。また、今後、侍浜中学校の統合に際し、様々対応等が変わって大変になることもあるかもしれないが、よろしくお願いしたい。

D委員：行事等の見直しなど進めているところかと思うが、同時に見直す際には学校として保護者に丁寧に情報発信していくことも大切だと思う。行事等を増やせば良いということではなく、働き方改革の観点からも精選していくことも必要だと思うが、それを保護者にどのように伝えて理解を得ていくかということも同時に考えていく必要がある。

G委員：学校と子どもたちが地域でより良く過ごしていくために様々な活動をしていることを知ることができて良かった。もっと多くの保護者にも知ってもらいたい。これからも保護者として協力していきたいと思う。

F委員：評価が低かった項目については、それだけ要望があるということである。それについ

ては前向きに取り組んでいけば良いだろう。秋まつりに関わってどの組も参加者の確保が課題となっている。田屋町みこし会では学校の取り組みからヒントを得ながら、まつりの中日には公民館で縁日を開くなどの工夫をした。そうしたところ、地域の子どもたちがたくさん集まり、みこし会の参加者増員につながった。今後も久慈拓陽支援学校とは交流を通して協力していきながら共に盛り上げていければと思う。

A委員：学校評価で働き方改革に関わって業務改善に関わる項目が昨年度より10%以上向上している。確か昨年度の運営協議会では、主に話題となった項目だったと記憶している。それが今年度改善されているという結果が出たことは、この会議の意義があったと嬉しく思う。次年度は岩手県特別支援教育研究大会が久慈地区で開催される予定である。久慈拓陽支援学校には、是非、本研究大会をリードしてもらいながら進めていただきたいと考えている。侍浜中学校は統合に伴い、令和8年3月に閉校となる。久慈拓陽支援学校とはこれまで良い交流を進めてきた。次年度まではこれまでどおり交流を実施できるが、併せて令和8年度以降の交流の持ち方などを相談していきたい。

6 連絡

7 閉会